

## 第二期工事に入った月島可動橋

東京港の竣工と其背面百萬坪の埋立地を開発する意図をもつた築地開渡しの可動橋架設工事は計畫以來幾變遷を辿つたが、一昨年着手以來順調に進捗してゐる。上に示すのは最近の工事状況で、設計の概要は次の通り。

### 設計の概要

位置・隅田川をはさむ東京市京橋區小田原町三丁目と同區月島西河岸通八丁目との間。

橋長と幅員・橋梁の長さは245メートルで、この内中央44メートルが可動橋となる。この幅は大體パナマ運河の幅員を標準にしたもので、凡そ1,500トン位の船舶が自由に行交ふことが出来、1隻ならば約5,000トン位までの船が航行出来る。橋梁の有効幅員は22メートルである。

型式・築地及月島寄の兩側徑間は鋼繫拱橋で中央可動橋はシカゴ型二葉跳開橋である。

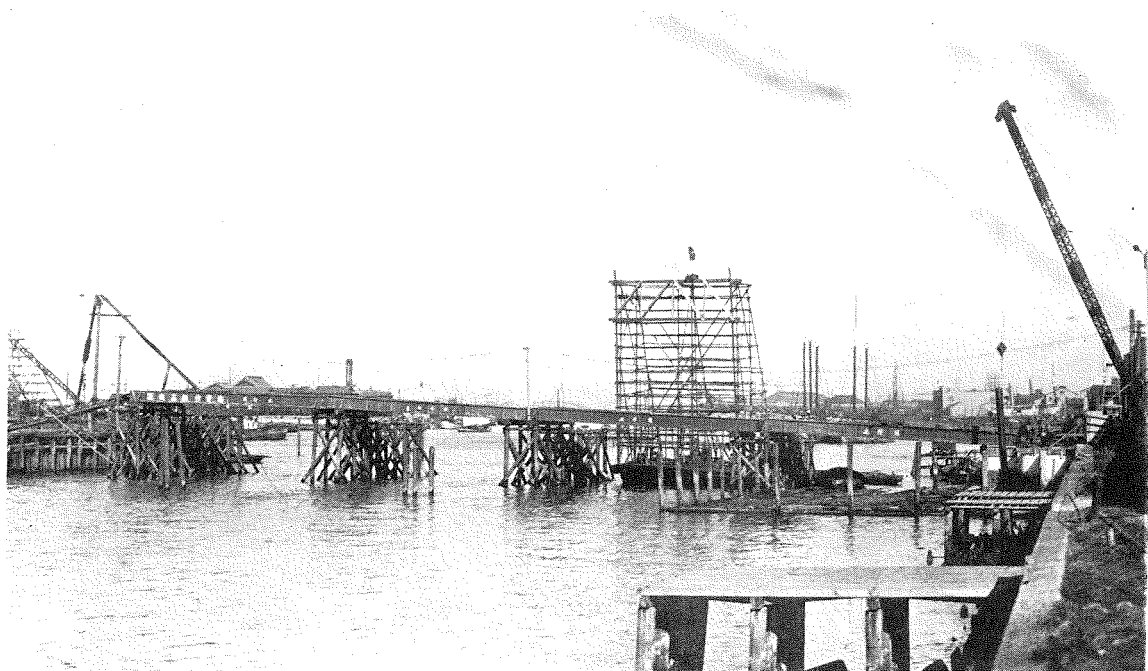
性能・最大1平方呎に付15ポンドの風壓に耐

へ、開閉の所要時間各1分10秒であるが、實際の最小運轉時間——開いて再び閉ぢるまで——は約6分間である。

可動橋の自重は各800トンで、橋脚内に各1,100トンのカウンター・ウエイトが裝備される。運轉所要馬力は片側250馬力、即ち兩側では500馬力である。

工事・工事は三期に分けて施工される。第一期工事の兩岸橋臺は既に竣工し、目下第二期工事中で月島寄橋脚の基礎工事が進められてゐる。第二期工事は錢高組の請負で橋脚の一部と月島寄側徑間一連の鐵部組立工事が昭和11年の4月までに竣工される。橋脚は底部幅19メートル長さ38.4メートルで、—12メートルに達し、バ切築島の上杭打基礎である。

第二期工事の殘部即ち築地寄側徑間と可動橋架設工事は第三期として施工されるが



その完成は昭和12年度の見込である。工事は現在上掲寫眞（昭和10年1月24日撮影）に示す程度まで進捗してゐる。即ち右端は月高側橋臺で既に竣功、中央は月島寄橋脚

のメ切築島で目下掘鑿工事中、左端は完成した築地側橋臺、下の寫眞は可動橋の一般圖である。

